

空き家を用いたコミュニティイベントの有効性に関する実践的研究
 - 三重県尾鷲市須賀利町を事例として -



住民参加 地方 漁村
 限界集落 移住 空き家

AJ15011 井原 綺子
 指導教員 志村 秀明
 担当教員 岡野 道子

1. 研究の目的と背景

三重県尾鷲市須賀利町では、空き家や過疎化が課題となっている中、新規参入企業である株式会社ゲイト(以下:ゲイト)が漁業権を獲得し、空き家を買取り移り住むなど、活性化の兆しが見え始めている。しかし、平均年齢72歳のまちで「余生を静かに暮らしたい」と多くの時間を自宅で過ごす住民は多く、町内における津波など災害時に必要な助け合いや見守りなどのコミュニティの形成には及んでいない。

本研究では、事前に行ったアンケート調査を基に、大学生が主体となり須賀利町において空き家を用いたコミュニティイベント^{*1}(以下:イベント)を開催する。イベント開催までの過程を示し、企画運営の方法及び参加者の意識変化と空き家利用における効果について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、地域住民に対しアンケートによる須賀利町に関する生活実態調査(以下:事前調査)を経て、実際にイベントを行う。さらにイベント時のアンケート調査による分析から仮説に対する論証を行う。

3. 研究対象地の概要

ヒアリング調査より、須賀利町の人口は近年194人と減少傾向にあり、そのうち生産年齢人口は株式会社ゲイトの社員6名のみとなっている。空き家は約300戸あるうちの157戸と半数を超えている。

4. 事前調査と仮説

事前調査より町内のコミュニティが過疎化に伴い細分化し、対話できる場は道端や玄関先、3カ所ある商店に限られていることが分かった。そこで空き家を用いたイベントによって防災コミュニティの形成のための空間を増やすことで将来的な効果が得られると仮説を立てた。

5. イベントの概要

イベントの会場配置を図1に示す。事前調査から須賀利町で毎年行われる「高齢者教室」の作品展示会に限られた地域住民のみの参加であることが分かり、それに改善を加えることとした。会場を町の中心とし、作品募集アンケートやモザイクアート作成など住民参加を促す訪問を2回行った後、11月20日に「須賀利まごころ作品展」(以下:作品展)を行った。

(1)実施方法

地域住民と学生など外部からの訪問者を対象に作品を募集し、空き家の一部を会場として11月20日の9時~17時まで作品展を開催した。

(2)効果

作品募集アンケートの回答者は20名、出品者は当日の出品も含み25名(内地域住民17名)、モザイクアート制作の協力者は21名(住民18名)、イベントでは84名(内72名)の来場者中、71名(内63名)がアンケートに回答した。

6. 実施主体の役割

(1)準備

作品展開催まで現地で行った準備過程を図2に示す。会場設営は11月17日~19日の3日間、企画者である学生(以下:学生)が5人で清掃、作品展示などの作業を行った。作品展開催にあたり3日間で交通費173,600円、材料費26,717円の費用が掛かった。作品は出品者に持参してもらう形とした。

(2)広報活動

学生が暮らし配布のため、8月と10月に住宅を訪問した後、商店や公共施設、漁協に協力を呼びかけ、ポスター設置を行った。訪問の際は毎回須賀利町の区長に町内放送をしてもらい、作品展を行う月は須賀利町内の回覧板20組に暮らしを入れた。

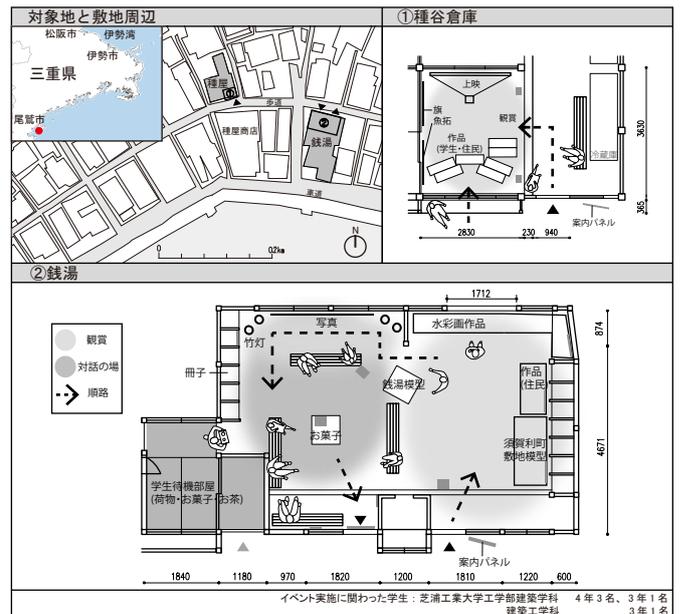


図1 イベントの会場配置

(3)作品展当日の役割

学生5名が2つの会場に分かれ、スタッフとして常在し、お茶出しとアンケート調査を行った。

7. イベントの評価と考察

今回作品展を実施した参加者、地域住民に対して行ったアンケート結果を図3に示し、イベントの有効性の評価を表1に示す。また、以下のことを明らかにした。

- ・空き家において地域住民の思い入れのある場所を開放することがイベントの集客力に効果的である。
- ・作品展の内容を地域住民の方が見慣れている風景だけでなく地域の昔の写真など今の現状と比較をすることが会話を促すことに効果的である。
- ・当日での参加者の交流の増加は、お茶菓子や長椅子など休憩できる場の提供など交流を生むための仕組みを導入したことが関係していると考えられる。
- ・照明の暗さや寒いことなど空き家における室内環境の準備不足が課題となった。
- ・普段開かれていない空き家をイベントなどで開く際に、外部の協力による掃除などが管理の補助的な活動となる。今後も開放する場合、管理者の負担が大きくなることが課題である。

8. 結論

以上のことから、コミュニティイベントを開催するための知見を得られ、それを図4にダイアグラムとして示す。空き家という空間資源と家具によって対話空間は簡単に提供することが可能である。また、本イベントの効果として、空き家を作品展などの対話空間に変換することで地域住民の外出や会話を促し、思い出を共有することが可能となった。さらに学生や訪問者とまちづくりを一緒に考えていく場を創出し、今後の空き家利用の可能性を発信することができた。以上より、コミュニティイベントの有効性が明らかとなった。

注釈

※1 コミュニティイベント…「学生、NPOや企業など地元住民以外」や「自治体」など地域住民だけでない外部からの介入による地域住民同士の助け合いや繋がりの一体化を目指し、対話する場を設けるイベントと定義する。

引用・参考文献

- 1) 山崎義人・佐久間康富：住み継がれる集落をつくる, 学芸出版社, No. 230, 2017
- 2) 藤山浩：田園回帰1%戦略, 農文協, No. 227, 2015
- 3) 松村秀一：空き家を活かす, 朝日新書, No. 190, 2018

| 日付 | 訪問者 | 作業概要 | | 協力者 | | 準備過程 | | | 運営 | | | | |
|----------------------------------|-----------------|-----------------------------------|------|------|--|---|----------------|---|--------------------------------|---------------------------|-------|----------------------------|---------------------|
| | | 実施主体：学生 | 調査内容 | 調査方法 | 住民・ゲスト | 清治・三重大学 | 目的 | 内容 | 許可・申請 | 会場 | 広報 | 道具の準備 | |
| 3/21 3/22 | 4名 (調査員：3名) | フィールドワーク 空き家調査 ヒアリング調査 | — | — | ・目視 ・ヒアリング | ・学生送迎 ・ゲストハウス貸出 ・現地案内 ・須賀利地図提供 | ・合同 アンケート調査 | ・空き家活用 ・空き家管理の提案 | ・空き家状況の ヒアリング | — | — | — | |
| 6/29 6/30 | 14名 (調査員：6名) | 第1回アンケート 調査(生活について) ヒアリング調査 | 32件 | — | ・模型を展示しながら ヒアリング ・町内放送後訪問 | ・学生送迎 ・ゲストハウス貸出 ・町内放送後訪問 | ・合同 アンケート調査 | ・生活面と社会面の 課題を把握 | ・須賀利町における 生活実態の調査 | — | ・鉄道見学 | ・模型用意 ・アンケート用紙印刷 | |
| 8/28 8/29 8/30 | 1名 | 第2回アンケート 調査(作品募集) | 20件 | — | ・町内放送後訪問 アンケートは 9月16日に回収 | ・学生送迎 ・ゲストハウス貸出 | — | ・住民参加のイベントを 開催する | ・作品募集アンケート 協力の呼びかけ | ・種屋の倉庫の一角 イベント当日の使用許可 | — | ・町内2カ所にポスターと アンケート回収箱設置 | ・アンケート用紙、ポスター 印刷 |
| 9/16 | 4名 (調査員：2名) | モザイクアートの 参加募集 | 21件 | — | ・町内放送後訪問 | ・学生送迎 ・ゲストハウス貸出 | — | ・住民参加のイベントの 準備 | ・モザイクアート制作 協力の呼びかけ | ・鉄道の一階部分 イベント当日の使用許可 | — | ・町内4カ所にポスター設置 | ・作品用意 ・アンケート用紙印刷 |
| 10/14 10/15 10/16 10/17 | 5名 (調査員：1名) | — | — | — | — | ・学生送迎 ・ゲストハウス貸出 | — | ・住民参加のイベントの 準備 | ・出品者へ日程確認 のため訪問 | ・会場開取り調査 | — | ・町内2カ所にポスターと アンケート回収箱設置 | ・アンケート用紙、ポスター 印刷 |
| 11/17 11/18 11/19 | 4名 (調査員：9名) | — | — | — | ・作品提供 | ・作品提供 ・長椅子制作 | — | ・住民参加のイベントの 準備 | ・会場の準備 ・作品を持ち寄って 展示をする | ・会場清掃 ・机、椅子設置 ・作品設置 | — | ・町内2カ所にポスターと アンケート回収箱設置 | ・作品用意 ・アンケート用紙印刷 |
| 11/20 当日 | 5名 (調査員：9名) | 第3回アンケート 調査(作品展に ついて) | 71件 | — | ・町内放送後来場者 にアンケートを渡し お茶と椅子を設置し ヒアリング | ・作品提供 | ・学生送迎 ・片付け | ・町内コミュニティの形成 ・須賀利町の魅力を共有 ・地域の魅力を共有 ・空き家利用の促進 | ・作品展を開く 住民が親しみやすい 空き家を活用 | ・会場清掃 | — | ・町内2カ所にポスターと アンケート回収箱設置 | ・作品用意 ・アンケート用紙印刷 |

図2 イベント開催(2018年11月20日)まで現地で行った準備過程

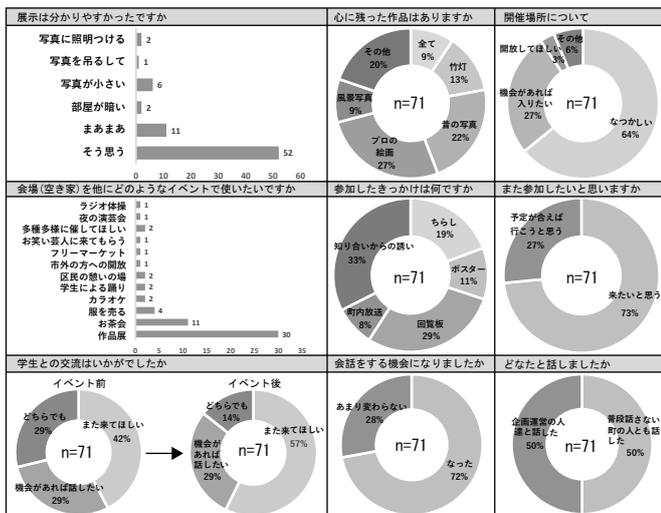


図3 アンケート結果

表1 本コミュニティイベントの有効性の評価

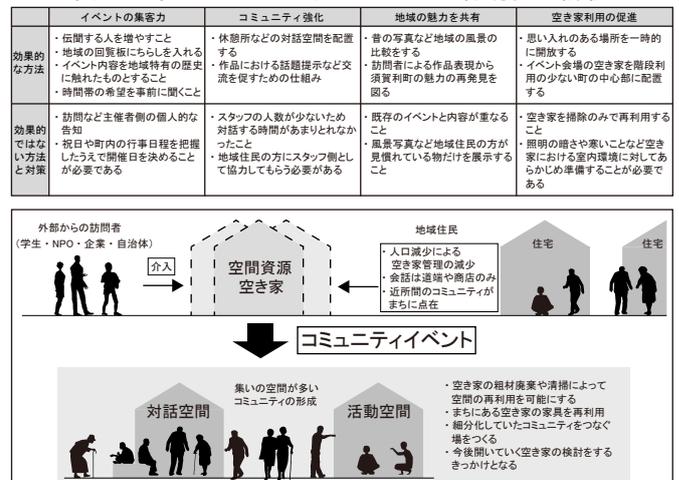


図4 コミュニティイベントのダイアグラム